

創世記 30:25-43 神はご自分のものを慈しまれる

ここまで、ヤコブが兄エサウを欺いて長子の権利を奪い、父を欺いて祝福を受け、さらにはヤコブ自身が叔父のラバンに欺かれて、その娘2人と結婚させられたことを見てきました。今日の箇所では、ヤコブが父と母のもとを離れ、叔父の下で働くようになってから14年後のことについて見ていきます。ラケル、レア、そして彼女たちの女奴隷たちとの間に12人の息子が生まれました。神は欺瞞に満ちた策略家を信仰の人に変えようと、ヤコブを厳しく訓練されます。ヤコブは神の祝福を得るために他人を利用してきましたが、神はヤコブを叔父から利用される側に置かれました。明確なのは、他人から利用されるというヤコブに対する訓練ともいえるこの時でさえ、神の主権の下にあるということです。そして、今日見ていくように、神はご自分の民を守ってくださいます。では、お祈りしてから創世記 30:25-43 を見ていきましょう。祈ります。

ご一緒に創世記 30:25 から読みましょう。「ラケルがヨセフを産んだころ、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせて、故郷の地へ帰らせてください。26. 妻たちや子どもたちを私に下さい。彼女たちのために私はあなたに仕えてきました。行かせてください。あなたに仕えた私の働きは、あなたがよくご存じなのでから。」27. ラバンは彼に言った。「私の願いをあなたがかなえてくれるなら——。あなたのおかげで主が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っている。」28. さらに言った。「あなたの報酬をはっきりと申し出てくれ。私はそれを払おう。」29. ヤコブは彼に言った。「私がどのようにあなたに仕え、また、あなたの家畜が私のもとでどのようであったかは、あなた自身がよくご存じです。30. 私が来る前は、あなたの財産はわずかでしたが、増えて多くなりました。私の行く先々で主があなたを祝福されたからです。いったい、いつになったら私は自分の家を持てるのですか。」31. 彼は言った。「あなたに何をあげようか。」ヤコブは言った。「何も下さるには及びません。もし私に次のことをして下さるなら、私は再びあなたの群れを飼って守りましょう。32. 私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。その中から、ぶち毛と斑毛の羊をすべて、子羊の中では黒毛のものをすべて、やぎの中では斑毛とぶち毛のものを取り分けて、それらを私の報酬にしてください。33. 後であなたが私の報酬を見に来られたとき、私の正しさが証明されるでしょう。やぎの中に、ぶち毛や斑毛でないものや、子羊の中に、黒毛でないものがあれば、それはすべて、私が盗んだこととなります。」34. するとラバンは言った。「よろしい。あなたの言うとおりになればよいが。」35. ラバンはその日、縞毛と斑毛の雄やぎと、ぶち毛と斑毛の雌やぎのすべて、すなわち身に白いところのあるもののすべて、それに、黒毛の子羊のすべてを取りのけて、息子たちの手に渡した。36. そして、自分とヤコブの間に三日分の距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼った。

この箇所ですぐわかることは、ラバンが良い人間ではないということです。彼はまさに、ヤコブが以前と変わらぬ道を歩み続けたとしたらそうなったであろう姿です。それまでのヤコブの人生は偽りと策略の連続でした。彼は祝福を求め、自分の欲しいもの、自分が得るべきと思うものを手に入れようと、不誠実な行いや他人を、特に兄のエサウを利用する手段に出ました。このラバンという男は更に上をいく嘘つきで、その性格を様々な形で見ることができます。もちろん7年前にもレアとの結婚についてもヤコブを欺きました。さて、ヤコブがラバンに彼の故郷の家に帰ると伝えたと、ラバンは心配して、ヤコブを引き留め働かせ続けようとあらゆることを言います。彼はまじないの結果、ヤコブのおかげで主が自分を祝福してくださったことを知ったと言いました。聖書で明確に罪深い行為とされているまじないを、神ご自身と簡単に結び付けられるのは、彼が神を恐れていないことを示しています。後にモーセとイスラエルの単に与えられた律法の中で、神はあらゆるまじないや占いの類を忌み嫌うことが明確に示されています。申命記 18:10 には「あなたのうちに、自分の息子、娘に火の中を通らせる者、占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、11. 呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死者に伺いを立てる者があってはならない。」とあります。もちろん彼のこの行動が、この箇所でも最も強調されるべき点ではありません。彼がヤコブにお金を払わずに彼を引き留めるために、どのような嘘をつき、欺こうとしたかが分かります。自分の娘たちと結婚させるため、実質14年もの間、彼がヤコブを無償で働かせてきたことを忘れてはいけません。

今もこのような人はいないでしょうか。職場でこのような人と働いているという方、あるいは、出世や自分を良く見せたいがために他人を踏みにじるといった、更に酷い人もいるかもしれません。このような人たちは、自分の欲しいものを手に入れたり、人や状況を良いように利用するため、たとえ真実でないことでも口にしたり、どんな約束でもします。そして、このような人たちが今も存在します。実際、私たちはクリスチャンというだけで、他人からある程度酷い扱いを受けるであろうと、神は御言葉の中で明らかにされています。ペテロへの手紙 第一 4:12 には「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っただけはいけません。」とあります。そして12節以降14節まで読み進めると、これらの燃え盛る試練には他人からの不当な扱いも含まれることが分かります。聖書は続けて「もしキリストの名のためにののしられるなら、あなたがたは幸いです。栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。」とあります。ではヤコブが迫害されているのは神に従っていたからでしょうか。いいえ、そうではありません。そのため、彼が受けた不当な扱いをクリスチャンに対する迫害と同じとみることはできません。ただ、クリスチャンとして、キリストに従うという事は、この世に既に蔓延しているそうした対応を更に自分の身にもたらしよう思えるということを描き出しているに過ぎません。ヤコブ自身にはそのように思えなかったかも知れませんが、神は彼を変えるために働かれています。彼が体験していたことは詩篇 11:5 の言葉で説明できるとおもいます。そこには「主は正しい者と悪者を調べる。そのみこころは暴虐を好む者を憎む。」とあります。ヤコブのために、神はこのことを用いて彼を試し、造り変えられ、神を信頼して自分の人生における神のご計画を反映する者へとその性質を変えられていたのです。イエス・キリストに従う者として、私たちは困難な状況を経験したり、私たちを利用したり虐げようとするような酷い人たちに会ったりしますが、そのような状況も神が私たちを試し、キリストのご性質を映す者と変えて下さっているのだと捉えることができます。未信者の方たちは、神の御怒りの下に在り、彼らがこの世で経験するどんな悪い状況も、罪のためにやがて直面する神の永遠の裁きに比べれば些細な事に過ぎません。苦しみからたとえ解放されたとしても、それはほんの一時的なものです。またその苦しみは、人生を形作るものかも知れませんが、神の似姿に造り変えるものでもありません。そうした事が彼らを創造主に向かわせるかも知れませんが、結局のところキリストなくして苦しみに意味を見出すことはできません。キリストを知らない人であっても、苦しみから良い方向に変わることが出来るのではないかと思う方がおられるかも知れませんが、もちろんその通りです。けれど、キリストから離れてどのような良い変化を得られたとしても、その良い変化は創造主である神をより反映する者として人々を突き動かすのに十分ではありません。ではそのような状況にあるとき、私たちはどうすれば良いのでしょうか。世の多くの人にとって自然な反応は怒りや復讐でしょう。場合によってはうつ病や絶望感、自殺願望といったことにまで発展してしまいます。ですがクリスチャンの場合、神との関係ゆえに、人から虐げられた際にどう対応するのかに違いがあります。私たちも他の方たちと同じような自然な反応をしてしまいそうになりますが、聖霊が働いてくださり、違う反応、キリストのような反応をさせてくださいます。キリストのような反応とは、自然な反応とは真逆な、予想外の反応です。それはイエスがマタイによる福音書 5:39 で言われた「しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。」という言葉で説明できるものです。このような反応は、私たち人間の罪の性質から起こるあらゆる自然な気持ちに反するものです。自分に対して不当な扱いをする人に敬意を持つだけでなく、キリストの愛まで持って接することができるほどに神に信頼することは、神の恵みによってのみ可能なことです。その状況の中で自分に対する神の恵みに目を向けるとき、キリストのような態度で反応することができるのです。この真実はペテロへの手紙第一 2:18-19 に見ることができます。そこには「しもべたちよ、敬意を込めて主人に従いなさい。善良で優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも従いなさい。19. もしだれかが不当な苦しみを受けながら、神の御前における良心のゆえに悲しみに耐えるなら、それは神に喜ばれることです。」とあります。

また、神が恵み深く、私たちが値しないものを与えてくださるお方であるということは、私たちが必ずしも神を喜ばせようという対応をしない時でさえ、ご自分の民を大切にしておられることを意味しています。それが、ヤコブが叔父のラバンから受けた仕打ちに対して取った対応の結果どうなったかに見られます。37-43節を読みましょう。「ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の若枝を取り、それらの白い筋の皮を剥いで、若枝の白いところをむき出しにし、38. 皮を剥いだ枝を、群れが水を飲みに来る水溜めの水ぶねの中に、群れと差し向かいに置いた。それで群れのやぎたちは、水を飲みに来たとき、さかりがついた。39. こうして羊ややぎは枝の前で交尾し、縞毛、ぶち毛、斑毛のものを産んだ。40. ヤコブは羊を分けて、その群れが、ラバンの群れの縞毛のものすべての黒毛のものに、向かい合わせになるようにした。彼は自分の群れを別にまとめておき、ラバンの群れと一緒にしなかった。41. また、強い群れにさかりがついたときに、ヤコブはいつも、あの枝を水ぶねの中に、群れの目の前になるように置き、枝のところで交尾させた。42. しかし、弱い群れのと看には、それを置かなかった。こうして、弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなった。43. このようにして、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、それにらくだとろばを持つようになった。」ヤコブは義理の父がしたことを見て、自分が要求した報酬を実際に受け取るために群れを作り直さなくてはなりませんでした。ヤコブはおそらく、自分が望んでいる結果を得られるであろう、民間伝承に基づく繁殖法の類を実践したと思われる。このことにおいて本当に神に信頼しているとは思えませんし、現代の遺伝学の常識からすれば愚かな行為と言わざるを得ません。もちろん、彼にしてみれば自分の縞やまだら模様の羊ややぎの群れは増える一方で、叔父の群れは小さくなっていきますから、効果的だったように思えたでしょう。叔父に盗みの罪を着せられたり、再び羊を奪われたりするようなことは一切しませんでした。望んだ家畜が生まれると、それを別の群れに移動させました。その結果、叔父の対応に関わらずヤコブは裕福になりましたが、それはラバンが決めた報酬に従ったからでした。それは以前のような不誠実な態度によるものではなく、誠実な努力によって得られたものです。

彼はその成功の要因を迷信的な枝や自分のビジネスセンスの良さによるものだと思っていたかも知れませんが、この成功の裏にはもっと大きな理由がありました。次の章では、ついにラバンのもとを去る準備をしているヤコブが、自分の成功の本当の意味を見つけたことが記されています。創世記 31:11-12 には「すると、神の使いが夢の中で私に『ヤコブよ』と言われた。私は『はい』と答えた。12. 御使いは言われた。『目を上げて見よ。雌やぎと交尾している雄やぎはみな、縞毛、ぶち毛、斑毛である。ラバンがあなたにしてきたことはみな、わたしが見た。』」とあります。ヤコブに実際に繁栄をもたらされたのは神であったことは明らかです。特別な枝によるものでも、ビジネスの才覚によるものでもありません。神がヤコブをご自分のものとして選んだという事実によるものです。元々アブラハムに与えられた祝福を受け継ぐ者として、また救い主であるイエス・キリストをこの世にもたらす家系の父として、神は彼を特別に選ばれました。それこそがこれら全ての中心にあるものです。神から選ばれたヤコブは叔父から酷い扱いを受けましたが、その中であって神が彼を守ってくださいました。彼は酷い扱いに負けないために、人として出来る限りのことをしました。2人の妻を娶り、14年間働くことに同意し、本来自分のものであった羊ややぎを叔父に取らせました。また解決策を模索して、当時の世俗的な知恵やビジネスの心得さえも利用しました。けれど結局のところ、ヤコブが得た結末はすべて神のおかげであったことを聖書は明らかにしています。やがて彼自身も、すべて神のおかげであったことに気づきます。今皆さんが経験していることはどのようなことでしょうか。あるいは眠れぬ夜を過ごしたり、憤りを覚えたり、絶望を感じさせるような、他人から受けるどんな酷い扱いを受けているのでしょうか。ヤコブが学んだように、神がご自分に属するものを守ってくださいさるのだということを学ぶ必要があります。イエスから目を離し、自分を傷つけようとする人や目の前の状況に注目するのは簡単です。ですが、私たちには神が守って下さるのだという確信に満ちた希望がイエスの内にあります。その約束は神の御言葉の至る所で明確に記されています。預言者イザヤがイザヤ書 12:12 で述べたメッセージもしかりです。そこには「見よ、神は私の救い。私は信頼して恐れぬ。ヤハ、主は私の力、私のほめ歌。私のために救いとなられた。」とあります。

そしてキリストが来られた後も、ヘブル人への手紙でどのようなことに直面したとしても確信をもっているとあるように、そのメッセージは変わりません。ヘブル人への手紙 13:6 には「ですから、私たちは確信をもって言います。「主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。」」とあります。

昨年学んだ歌で「イエスの素晴らしさ」という、何に直面したとしても神の素晴らしさを力強く思い起こさせてくれる歌があります。「疲れた者は、今イエスのもとへ 恐れのある者、今来て、見なさい 涙のただ中に、主の完全な愛と慰めがある 主の素晴らしい平安の中で安らぎを得よ」そしてコーラスでは、「ああ、素晴らしい、イエスは素晴らしい 私の必要すべてを満たす方 何があろうとも、日々安らぎの中に憩う イエスの優しさの中で」2番と3番では、このような希望はイエス・キリストによってのみもたらされることが語られています。「この世が与える事のできない物を見つけなさい ここであなたの全ての喜びを見つけよう 生ける水を味わい、二度と渇くことなく 主の素晴らしい平安の中で安らぎを得よ」そして3番は、「今イエスのもとに来て希望を見出しなさい イエスはご自身が言われる通りの方 救い主の心からは恵みが溢れる 主の素晴らしい平安に憩え」イエスの素晴らしさ、私たちの神の素晴らしさは、神がご自身の民を守られることを明確に示しています。

私たちはイエスを自分の主であり、救い主として受け入れることによってのみ、その素晴らしさを知る喜びを味わうことができます。私たちがイエスに信仰と信頼を置かなくてはならない理由は、イエスが十字架で私たちのために何をして下さったのかによるものです。神は私たちに優しく、御子イエス・キリストを通して私たちが受けるに値しない憐れみを示してくださいました。イエスは私たちの身代わりとして十字架にかかって下さり、その血を流され、罪に対する神の怒りを私たちの罪をご自身が負うことによって取り除いてくださいました。ですから、今日、私たちはこの聖餐式に与ることによって、私たちのために神が成し遂げて下さった最も憐み深く恵み深い行いを覚えます。パンを食べ、盃を飲むことで、イエスの犠牲を覚えます。イエスを主とし、救い主として受け入れ、バプテスマを受けられた方はどうぞ共に主の晩餐に与ってください。私が祈った後、執事が礼拝堂の四隅でパンと杯をお配りします。その後で共にパンを食べ、盃を飲みましょう。祈ります。

Genesis 30:25-43 God takes care of his own

So far, we have seen Jacob trick his brother Esau out of his inheritance, deceive his father into his blessing him and then being deceived himself into marrying both of his daughters by his Uncle Laban. As we come to today's passage, we are 14 years in the future since Jacob left his father and mother and came to work for his uncle. He has had 12 sons by Rachel and Leah and their servant women. Jacob is learning a difficult lesson from God, as God changes this deceitful and scheming man into a man of faith. As Jacob has taken advantage of others in his struggle to claim God's blessing, God has put him in the same position of now being taken advantage of by his uncle. But what remains clear even in this time of what could be described as discipline for Jacob is that even the mistreatment from others is under God's control. And as we will see today God takes care of his own. So, let's pray and then get into our text for today in Genesis 30:25-43. Let's pray.

Please read with me starting at verse 25 of Genesis 30. **As soon as Rachel had borne Joseph, Jacob said to Laban, "Send me away, that I may go to my own home and country. 26 Give me my wives and my children for whom I have served you, that I may go, for you know the service that I have given you." 27 But Laban said to him, "If I have found favor in your sight, I have learned by divination that the Lord has blessed me because of you. 28 Name your wages, and I will give it." // 29 Jacob said to him, "You yourself know how I have served you, and how your livestock has fared with me. 30 For you had little before I came, and it has increased abundantly, and the Lord has blessed you wherever I turned. But now when shall I provide for my own household also?" 31 He said, "What shall I give you?" Jacob said, "You shall not give me anything. If you will do this for me, I will again pasture your flock and keep it: // 32 let me pass through all your flock today, removing from it every speckled and spotted sheep and every black lamb, and the spotted and speckled among the goats, and they shall be my wages. 33 So my honesty will answer for me later, when you come to look into my wages with you. Every one that is not speckled and spotted among the goats and black among the lambs, if found with me, shall be counted stolen." // 34 Laban said, "Good! Let it be as you have said." 35 But that day Laban removed the male goats that were striped and spotted, and all the female goats that were speckled and spotted, every one that had white on it, and every lamb that was black, and put them in the charge of his sons. 36 And he set a distance of three days' journey between himself and Jacob, and Jacob pastured the rest of Laban's flock.**

What is immediately clear from this passage if it was not clear already is that Laban is not a good man. He is really the picture of who Jacob would become if he continued down the path his life had started at. Jacob's life up to that point was characterized by deceit and lies. In his struggle for blessing, he had resorted to dishonesty and taking advantage of others, his brother Esau specifically, in order to get what he wanted and thought that he deserved. This man Laban was the more advanced level of liar, and we see his character in several different ways. Of course, he had already deceived Jacob 7 years before this with his wedding to Leah. Now when Jacob announces to Laban that he will leave and return to his home, Laban is worried and says whatever he needs to say to keep him working for him. We see him make the statement that divination has shown him that the Lord is blessing him because of Jacob. The fact that he can so easily tie divination, a practice that is clearly sinful from the Scripture, with God himself shows his lack of fear of God. In the law later given to Moses and the people of Israel, God

clearly shows his hatred for all forms of fortune telling and divination. [Deuteronomy 18:10](#) says, ¹⁰ [There shall not be found among you anyone who burns his son or his daughter as an offering, anyone who practices divination or tells fortunes or interprets omens, or a sorcerer.](#) This behavior on his part, of course, is not the true focus of his character in this passage. Here we see how he lied and cheated Jacob in order to get him to stay and avoid actually paying him. Remember that he has gotten 14 years of basically free labor out of Jacob for marrying his daughters and he is not about to give that free labor up.

Do we face these kinds of people today? Are there people in our workplace, maybe we work with them or even worse for them, who will step on anyone to get ahead or to make themselves look better? They will say anything and make any promise, even one that is not true in order to take advantage of people and circumstances in order to get what they want. And of course, these people are still around. In fact, just for the fact that we Christians, God reveals in His Word that we should expect to face mistreatment from others to some degree. [1Peter 4:12](#) says, [Beloved, do not be surprised at the fiery trial when it comes upon you to test you, as though something strange were happening to you.](#) And when you read past verse 12 to verse 14, it is clear that these fiery trials involve unjust treatment from others. The Bible continues, [If you are insulted for the name of Christ, you are blessed, because the Spirit of glory and of God rests upon you.](#) Now, is Jacob being persecuted because he is following God? No. So, we cannot equate the mistreatment he is receiving with Christians persecution, but simply make the point that as a Christian, to follow Christ would seem to bring on even more of this behavior that is already so prevalent in the world that we live in. For Jacob, although he may not have seen it this way, God was doing the work of changing him. What he was going through could likely be explained by [Psalm 11:5](#) that says, [The Lord tests the righteous, but his soul hates the wicked and the one who loves violence.](#) For Jacob, God was using this to test him, to mold him and shape his character into a man who trusted God and reflected God's purpose in his life. For those who are followers of Jesus Christ, we go through difficult circumstances, even deal with difficult people who mistreat us and use us, and these circumstances can be seen as God testing us, shaping us to reflect the character of Christ. For the unbeliever, they are under God's wrath, and any bad they experience on earth is small compared to the eternal judgment of God they face for their sin. Whatever relief they find from their suffering is temporary at best. And suffering, while life shaping, is not molding them into the image of God. It may be pushing them towards their creator, but in the end, apart from Christ, there is no ultimate meaning in suffering. I know you may be thinking that even people without Christ can change for the good from suffering, and that is true. But whatever change for the good that happens apart from Christ, that good will never be good enough to move them to better reflect their Creator God.

So, the question is how do we respond in these circumstances? To most in the world, a natural response would be anger, or revenge. If a situation is bad enough, it could even lead to depression, hopelessness and suicidal thoughts. But for a Christian, our relationship with God makes a difference in our response to being mistreated by others. While we will have those same natural responses that everyone can find themselves heading towards, the Holy Spirit intervenes to create a different response – a Christlike response. The Christlike response is one that is completely opposite and unexpected

from what the natural response would be. It is described by Jesus in [Matthew 5:39](#) **But I say to you, Do not resist the one who is evil. But if anyone slaps you on the right cheek, turn to him the other also.** This response goes against every natural inclination that comes with our sin nature as humans. To trust in God enough to treat those who mistreat us with respect and even the love of Christ is only possible through the grace of God. When we are focused on God's grace towards us in a given situation, then we can respond with a Christlike attitude. We see this truth in [1 Peter 2:18-19](#) **Servants, be subject to your masters with all respect, not only to the good and gentle but also to the unjust. 19 For this is a gracious thing, when, mindful of God, one endures sorrows while suffering unjustly.**

And the fact that God is gracious, giving us what we do not deserve, means that , even when we don't necessarily seek to please God in our response, he takes care of his own. This is what happens with Jacob in response to his treatment by his uncle Laban. Let's read verses 37-43. **³⁷ Then Jacob took fresh sticks of poplar and almond and plane trees, and peeled white streaks in them, exposing the white of the sticks. ³⁸ He set the sticks that he had peeled in front of the flocks in the troughs, that is, the watering places, where the flocks came to drink. And since they bred when they came to drink, ³⁹ the flocks bred in front of the sticks and so the flocks brought forth striped, speckled, and spotted. ⁴⁰ And Jacob separated the lambs and set the faces of the flocks toward the striped and all the black in the flock of Laban. He put his own droves apart and did not put them with Laban's flock. ⁴¹ Whenever the stronger of the flock were breeding, Jacob would lay the sticks in the troughs before the eyes of the flock, that they might breed among the sticks, ⁴² but for the feebler of the flock he would not lay them there. So the feebler would be Laban's, and the stronger Jacob's. ⁴³ Thus the man increased greatly and had large flocks, female servants and male servants, and camels and donkeys.** Jacob saw what his father in law had done, and had to rebuild the flock to actually receive the payment he requested. Now, it seems that Jacob is probably practicing some sort of folk medicine practice of breeding that would supposedly give the results he wanted. It does not seem that he is really relying on God in this process, and by any modern understanding of genetics, this practice seems foolish. Of course, to him it seemed that it worked, because his herd of striped and speckled and spotted sheep and goats grew while his uncles shrunk. He did not take any chances that his uncle would accuse him of stealing or somehow take his sheep again. He moved them away into a separate herd as they were born. The result of this was that he became wealthy in spite of the actions of his uncle, and he did it by following Laban's own agreement as to what the wages were. This gain came through honest effort, not the dishonesty of his earlier years.

But, while he may have attributed his success to his superstitious sticks and his own good business sense, there was a much bigger reason behind his success. In the next chapter, as Jacob prepares to finally leave Laban, he shows that he has discovered the real reason for his success. [Genesis 31:11-12](#) says, **11 Then the angel of God said to me in the dream, 'Jacob,' and I said, 'Here I am!' 12 And he said, 'Lift up your eyes and see, all the goats that mate with the flock are striped, spotted, and mottled, for I have seen all that Laban is doing to you.** It is clear that God is the one who has actually orchestrated Jacob's good fortune. It is not due to his sticks. It is not due to his business acumen. It is due to the fact that God has chosen Jacob to be one of his own. He has chosen him specifically to receive the blessing originally given to Abraham and

become father to the family that will bring Jesus Christ, the Messiah to earth. That is the point of all this. That Jacob, the man God had chosen, was badly mistreated by his uncle, yet through all of the abuse God took care of him. He did everything he humanly could to overcome the mistreatment. He married two wives, agreed to work 14 years, let his uncle steal sheep and goats that should have rightfully been his. He even used the colloquial wisdom of that day and a mind for business to find a solution. But after everything was said and done, the Bible makes it clear that whatever Jacob is ending up with is all because of God. Eventually he comes to see that all this is because of God. What is it that you are going through today or what obstacle in the form of mistreatment by another person are you facing that causes you sleepless nights, fits of anger and possibly even despair and hopelessness. You need to learn the lesson that Jacob is learning that God takes care of his own. It is easy to take our eyes off of Jesus and put it on the person doing us harm or on our circumstances. But in Jesus we have confident hope that God will take care of us. That promise is clear throughout God's Word. It is the message of the prophet Isaiah in [Isaiah 12:2](#). [Behold, God is my salvation; I will trust, and will not be afraid; for the Lord God is my strength and my song, and he has become my salvation.](#) And after Christ, the message does not change as Hebrews points to the confidence we have no matter what we are facing. [Hebrews 13:6](#) says, [So we can confidently say, The Lord is my helper; I will not fear; what can man do to me?](#)

There is a song we have learned in the past year that powerfully reminds us of the goodness of our God no matter what we face called the Goodness of Jesus. [Come you weary heart now to Jesus...Come you anxious soul now and see... There is perfect love and comfort in your tears... Rest here in His wondrous peace.](#) Then the Chorus says, [Oh the Goodness, the Goodness of Jesus Satisfied he is all that I need May it be, come what may, that I rest all my days In the Goodness of Jesus.](#) The second and third verses tell us that this kind of hope can only come through Jesus Christ. [Come find what this world cannot offer Come and find your joy here complete Taste the living water, never thirst again Rest here in His wondrous peace.](#) And the third, [Come and find your hope now in Jesus He is all he said he would be Grace is overflowing from the Saviour's heart Rest here in His wondrous peace.](#) The goodness of Jesus, the goodness of our God himself is clearly seen when he takes care of his own.

We only experience the joy of knowing the goodness of Jesus by accepting him as our Lord and Savior. And the reason that he is the one we must put our faith and trust in is because of what he did for us on the cross. God was good to us, he showed his grace to us when we did not deserve it through his Son, Jesus Christ. Jesus died on a cross and shed his blood on our behalf to take away God's wrath against our sin by placing that sin on himself. That is why today, we remember that most good and gracious act ever accomplished on our behalf by partaking of this communion meal. We eat the bread and drink the cup to remind us of Jesus' sacrifice. I invite anyone who knows Jesus as Lord and Savior and has been obedient in baptism to join in the Lord's Supper today. After I pray, the Deacons will serve the bread and cup from the corners of the sanctuary and we will eat together and drink together. Let's pray.